

第 1 回分科会活動報告

日 時：2011 年 5 月 19 日（木）

場 所：武蔵大学 江古田キャンパス

出席者：34 名（内訳：正会員 22 名、賛助会員他：12 名）

記録者：日本大学理工学部 恵藤 浩朗（第一分科会運営委員長）

テーマ：PBL、SNS

1. 配布資料

- (1) 2011 年度第 1 回第一分科会プログラム
- (2) 2011 年度第 1 回第一分科会出欠名簿
- (3) フォーラム運営委員からのお知らせ
- (4) 2011 年度総会の開催について（ご案内）
- (5) トピックス企画 管理職セミナー「ワールド・カフェ活用講座」の開催について（ご案内）
- (6) 講演資料「三学部横断型ゼミナール・プロジェクト」
- (7) パンフレット「三学部横断型ゼミナール・プロジェクト」
- (8) パンフレット「武蔵大学学校案内」
- (9) 懇親会会場のご案内

2. 研究活動内容

- (1) 全体会 13:00～13:10
 - a. 開会の挨拶
 - b. 運営委員・幹事の紹介、挨拶
 - c. 年間活動計画概要の説明
 - d. フォーラム運営委員会からの連絡
 - e. 事務局より連絡

- (2) 会場校ご挨拶 13:10～13:20

武蔵大学 経済学部 教授、情報・メディア教育センター長 梅田氏

- (3) ご講演 13:20～14:20

テーマ：「三学部横断型ゼミナール・プロジェクト」

講演者：武蔵大学 社会学部 助教 稲増氏

このプロジェクトは、平成 21 年度の教育 GP に採択された取組みで、異なる学部の学生が協働し多角的視点から問題を解決し、自己管理能力、チームワーク、リーダーシップの向上を目指す取組みで、情報共有など「横の繋がり」には独自で構築された SNS がフル活用されています。そこで稲増氏には「ゼミの武蔵」と言われる武蔵大学ではゼミが必修だが、そのゼミの少人数教育のデメリットとして大勢の前での



主張が難しいといった課題を抱えられていたという背景や、経済・人文・社会の 3 学部が

それぞれの専門性を活かしながら協働して課題を解決する PBL を活用し社会人基礎力を養成したいというプロジェクトの目標、プロジェクトへの教員のかかわり方（コーチングやアドバイス）、最終的には CSR 報告書を作成させるといった具体的な活動内容などについてご説明いただきました。

(4) 学生の体験談 14:30～15:20

経済・人文・社会の 3 学部から 1 名ずつ参加・発表していただきました。

- a. 経済学部の学生：学部内でも、意見をいわずらく、あまり横断ゼミという雰囲気も感じられなかった。そして週 1 回の講義だけで集まっても進まないことを実感し、情報共有の必要性や、自分のやるべきことの整理のため、「SNS の利用」を思いついた。最後の 10 日は怒涛の一週間、皆の熱気で自分も頑張ることができ大きな達成感を感じた。
- b. 人文学部の学生：人文学部の特徴は、企業の文化を理解していく所。自分の中で就職活動および講義をマネジメントするため計画力、プロジェクトを進めるうえで調査能力が必要だった。そしてそこで培われた能力が就職活動で活かせたと思う（企業の人にも良く調べてきたなと褒められるほど）。人が変わっていくこと、成長を実感可能な、このゼミは素晴らしい。
- c. 社会学部の学生：大学の中で一番多くの気づきを得られたのが、この横断ゼミ。自分は社会人基礎力がある方だと思っていたが、自分の未熟さを痛感、プロジェクトを進める上で、チームのために何をすれば良いのかを意識し対応できるようになった。



(5) コメント 15:20～15:45

テーマ：「三学部横断型ゼミナール・プロジェクトについて」

講演者：武蔵大学 人文学部 教授（前学長）、プロジェクトリーダー 平林氏

日経新聞との話の中で、「ゼミの武蔵」と売り込んでいるが、他大学のゼミと何が違うのかという問いに困り、当時の学長補佐と相談し、従来のゼミは内側を向いていたが開かれたゼミはどうかと考えたそうです。そこでインターンとは違い大学が主導的に進める講義としての展開を図ることにした、それがこのプロジェクト。IBM とタイアップして、自動車会社を作るといったことを仮想世界で実施したことがあ



る、タイヤ一本いくら？から、コマース、儲かる、までやり、その仮想世界では円が暴落など、それにどう対処するかなどといった講義も実施されました。またこのプロジェクトを実施する上で教授会の合意形成は無理と判断し、教員個々と直接話をするこで実施にこぎつけたそうです。そして最後に、このゼミを習得している学生は 100%の就職率を誇り、ゼミにより学生が育ったことによる数値だと思いうお話伺いました。

(6) 意見交換会 15:45～16:25

ファシリテータ：惠藤

学生達のプレゼンとこの意見交換会を通して「大学の中で一番多くの気づきをくれたのがこのゼミ」、「チームへの信頼と意識の共有の大切さを痛感」といった感想を伺えたのと同時に、プロジェクト参加者の成長ぶりを伺え、武蔵大学の「元気の源」がここにあるなど実感しました。また、このプロジェクトでは独自に開発された SNS でしたが、SNS が学生・企業・教員を結びプロジェクトの中心的なコミュニケーションツールになっていることを改めて認識させられました。そして PBL における成績評価というものにはなかなか難しいことがあるが、そのプロジェクトにどれだけ積極的に関わったのかといったことを SNS の利用状況などから割り出したという面からも、SNS の結果がとても参考になったという話も伺えました。



(7) 施設見学 16:35~17:15

三学部横断型ゼミナールで実際に利用されているコモンルームやグループスタディールームなどの施設見学を行いました。

(8) 懇親会 17:40~

3. まとめ

とても内容の濃い有意義な例会となりました。また実際にゼミナールを受講した学生が分科会の場で体験談を話してくれたことで、このプロジェクトが本当に期待している成果を生み出していると確信できました。「教育・研究」を取り扱う第一分科会としては、このように学生参加型で分科会を実施することも一つの方法であることを改めて認識し、次回以降の分科会でも積極的に学生の参加を呼び掛ける検討をしていきたいと感じました。

以 上